

TAKE FREE
ご自由にお取りください

いのほなハーモニー Harmony

69
2023.SEP.



特集 未来粘膜ワクチン研究開発センター / CLOSE UP ハートセンター

Harmony vol.69 千葉大学病院広報誌「いのほなハーモニー」 第69号 2023年9月29日 発行



管理栄養士たち（詳細は裏表紙へ）



Special Thanks

皆さまの温かいお気持ちは、病院で働くスタッフの大きな励みになっています。本当にありがとうございます。

寄附金の活用事例

れんがの庭は、毎日多くの患者さん・職員に利用されています

皆さまからの寄附金を活用させていただいて整備した中庭「れんがの庭」は、昨年11月14日にオープンして以来、多くの患者さんや職員にご利用いただいています。日替わりキッチンカーがやってくるため、昼どきは行列ができることもあります。ドラマ撮影にも使われています。



プロヴァイオリニスト・加藤玲名さんより、今年もご寄附をいただきました！

クリスマスコンサートや七夕コンサート、チャリティーコンサートなどで集めた「新型コロナウイルス医療対策支援金」を昨年に引き続き、当院にご寄附いただきました。継続的なご支援にこころより、御礼申し上げます。



message

「医師の働き方改革」にご協力ください。

2024年4月、「医師の働き方改革」に関する法律が施行され、医師の業務時間の上限規制が始まります。患者さんに安心・安全で質の高い医療を提供し続けるため、当院をはじめ、全国の医療機関では、医師が健康でやりがいをもって働き続けることができるよう、患者さんやご家族の皆さまにもご協力いただきながら、診療体制の適正化を進めています。

- ① 病状や手術・治療のご説明やご相談は、原則、平日9時00分～16時45分に行います。時間外は対応しかねますので、ご了承ください。
- ② 土日・祝日・夜間は、主治医と連携しながら当直・当番医が対応します。
- ③ 当院は高度急性期の患者さんの治療を担っています。高度急性期を脱したら、当院から地域の医療機関などにお移りいただきますので、ご了承ください。
- ④ 診療や検査の予約変更は、やむを得ない場合に限りです。予約日時の決定は、慎重にお願いいたします。



cover

チーム医療により入院中の栄養管理と食事に力を入れています

当院は患者さんの栄養状態を良くして治療効果をあげるために管理栄養士がベッドサイドに訪問したり多職種と連携して栄養管理計画を立てています。また、安心・安全で治療に合わせたおいしい食事を提供できるよう、厨房では献立どりの調理や盛り付け、味付けであるか日々確認しています。



【発行】 千葉大学医学部附属病院
〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄島1-8-1
TEL: 043-222-7171 (代表) Mail: byoin-koho@chiba-u.jp



千葉大学病院ホームページ
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/>
※バックナンバーをご覧いただけます



この印刷物は、SCOPE1とSCOPE2の温室効果ガスをゼロにした工場です。

次のパンデミックに備えて、世界へ！

未来粘膜ワクチン 研究開発センター

パンデミック経験を糧に
新たな挑戦が始まっています

2020年1月から始まった当院のコロナ対応は、2023年5月、5類への移行とともに、コロナ専用病棟をなくし、すべての病棟で感染対策を完全に診療していく体制に変わりました。しかし、コロナ前に戻るわけではありません。今回のパンデミックで得た教訓を糧に、さまざまな改革に取り組み、よりよい病院に発展させてまいります。

2022年6月、当院に新たに開設した「未来粘膜ワクチン研究開発センター」も新たな挑戦の一つ。その名の通り、未来型のワクチン開発を目指して、動き始めています。

「感染しても重症化せず」から、
「感染そのものを阻止」へ

何が未来型か？まず、針を刺しません。自分で鼻か口の粘膜面に噴霧します。従来の「重症化を防ぐ」に加え、「病原体の侵入そのものを防ぐ」ことができます。注射器や針を使わないので、医療者は治療に専念でき、人にも社会にも優しいワクチンの開発を目指します。

センター長に就任した清野宏卓越教授は、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)で、長年、免疫学研究の新潮流となる粘膜免疫分野を取り入れたワクチン研究を推進している、この分野の第一人者です。

当院が2022年4月に塩野義製薬株式会社との共同研究部門として設立した「ヒト粘膜ワクチン学部門」の部門長も務めており、粘膜ワクチン開発の基礎研究と、それを応用した臨床への実装化を目指していきます。

千葉大学は、これらの基盤を核に、日本医療研究開発機構(AMED)「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」のシナジー拠点として採択され、2022年10月に「未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点を設置。安心で体に優しい粘膜ワクチンが命と生活を守る」をビジョンに、千葉大学とUCSDを中心に基礎研究系14名、臨床研究系3名の計17名の体制で、国内外の大学や研究施設、企業との共同研究や連携、農工化学などの異分野との融合、人材育成を行い、粘膜ワクチンの研究開発と臨床への応用につなげていきます。



2023年3月に実施した本拠点のワークショップには約70名の研究者らが集結。当院の中島裕史副病院長(最前列中央)も臨床担当の副拠点長に就任し、治験などで連携します。



注射ではなく、鼻や口から噴霧する「粘膜ワクチン」です



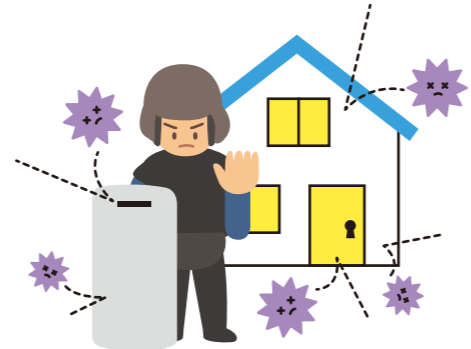
注射ワクチン

- ① 針を刺すので接種時の痛みや腫れなどがある
- ② 重症化の回避はできるが、病原体の侵入は防げないので感染阻止はできない
- ③ 接種は医師や看護師などが行う。医療機関に負担がかかり、接種体制の整備に時間が必要



粘膜ワクチン

- ① 鼻や口に噴霧するので注射の痛みなどはない
- ② 粘膜面で病原体の侵入を防ぐことができるので、感染阻止と重症化回避が可能
- ③ 自分で接種できるので、迅速かつ大規模に接種することができる



なにが「未来」なの？

人にも社会にも
優しいワクチンを目指しています。

接種の痛みも副反応の不安も少なく、医療現場にも負担がかからない、そんなワクチンを開発したい。それが、私たちの目標です。幅広い分野から研究者が集まり、多彩な企業と連携しながら、社会とともに歩みを進め、皆さまの信頼に応えてまいります。

未来粘膜ワクチン研究開発センター

清野 宏 センター長

国際未来医療機関部門 部門長

未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点 拠点長



ハートセンター

「心血管疾患の患者さんに最適な治療を行うために」

心臓血管外科と循環器内科を中心に、チームで診療するハートセンター

当院では、ハイリスク弁膜症、重症心不全、大動脈疾患など、あらゆる心血管疾患の患者さんに対して最適な治療ができるよう、循環器内科と心臓血管外科をはじめ、放射線科、放射線部、救急科、ICU、麻酔・疼痛・緩和医療科、リハビリテーション部、臨床工学センターと緊密な協力体制を構築しています。

大動脈弁狭窄症の治療法

経カテーテル的弁置換術

「TAVI」で連携



心臓血管外科・松浦馨医師(左)と循環器内科・北原秀喜医師



心臓血管外科・黄野皓木医師(右)と循環器内科・岩花東吾医師

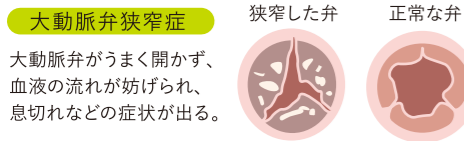
TAVIで最強タッグ！

高齢者などにとって新たな選択肢に

「TAVI」(タビ:Transcatheter Aortic Valve Implantation)は、大動脈弁狭窄症の患者さんを対象に、開胸手術を行わず、カテーテルを使って人工弁を心臓に装着する低侵襲な治療法です。外科手術が必要な症例も多いのですが、治療にかかる時間は40分程度と短く、退院も3、4日程度でできるので、患者さんへの負担が少なく、高齢者やほかに疾患がある方など、手術リスクが高い方にとって新たな選択肢となりました。2020年から透析患者さんなどにも適応が広がりました。



(右から)心臓血管外科の松浦医師と循環器内科の北原医師、松浦医師は企業プロクター指導医を務めている。



大動脈弁狭窄症

大動脈弁がうまく開かず、血液の流れが妨げられ、息切れなどの症状が出る。



受診をご希望の患者さんは、まずかかりつけ医にご相談ください。医療機関の方々は、患者さんの胸の音を聞いて雑音があれば治療対象かもしれません。迷わずご相談ください。

患者さんにとって最適な治療法を選択

従来は、循環器内科と心臓血管外科がそれぞれの患者さんに対し、単独で治療法を決定していましたが、現在はカンファレンスも一緒に行い、治療適応決定から術後のフォローに至るまで、対等な関係で考えを伝え合い、患者さんにとって最適な選択ができる環境を作っています。これは当院が最も誇れる部分です。

手術は内科と外科の医師が必ず一緒に

手術は両科の医師が必ず一緒に行います。当院では外科的手術とカテーテル治療を同時に施行できる最新のハイブリッド手術室を整備していますので、万一開胸手術が必要になったときには外科医が、冠動脈への介入などが必要になったときには内科医が専門性を発揮して患者さんの安全を確保しています。2022年の実施件数は126件で国内トップクラスの症例数であり、その他僧帽弁クリップ術なども実施しています。今後も最新のカテーテル的弁膜症治療にいち早く取り組んでいく予定です。

VADと心臓移植で救命

重症心不全に補助人工心臓を

「VAD」(バド:Ventricular Assist Device)は、補助人工心臓とよんで、弱った心臓のポンプ機能を代行し、血液を全身に送り出す装置のことです。難治性の重症心不全の患者さんが対象で、従来は心臓移植適応の方に限られていましたが、2021年5月からは適応が拡大され、心臓移植適応のない方も条件を満たせば受けることができるようになりました。

小型化・軽量化で社会復帰も

中でも、体内への植込型補助人工心臓は、小型化・軽量化が進み、装着したまま在宅療養や、場合によっては社会復帰も可能となっています。

ポンプ

手術で体内に埋め込み、心不全になり十分に血液を送り出せなくなった心臓を補助します。



バッテリー

ショルダーバッグには、心臓に埋め込んだポンプを動かすためのバッテリーやコントローラーが入っています。外来受診時に臨床工学技士がメンテナンスを行い、正常に作動しているか確認します。



千葉県で唯一の心臓移植実施施設

当院は、千葉県で唯一の植込型補助人工心臓「VAD」実施施設で、これまで約50件実施してきました。さらに、心臓移植の適応外とされた重症心不全の患者さんに対する植込型の長期在宅治療「DT (Destination Therapy)」の認定施設としても、2021年から全国に先がけて実施しています。また、国内11施設の心臓移植施設の一つであり、2019年に開始し、これまでに12件実施しています。



患者さんに退院後の話を聞きながら、触診をする循環器内科の岩花医師(左から2番目)

重症心不全の患者さんに対し、循環器内科と心臓血管外科をはじめ、他の診療科、移植医、リハビリテーション部、コーディネーターなど多職種が連携して治療にあたっています。

心臓血管外科 × 循環器内科

今回のテーマ

女性の更年期



「更年期」とは、閉経年齢(平均50歳)の前後、だいたい45～55歳頃を指します。女性であれば誰も訪れる時期ですが、「更年期症状」がないまま終える人もいれば、重い症状に悩む人もいます。受診の目安や治療方法を当院の医師に聞きました。

答えてくれる人



婦人科
金子明夏 医師

Q. そもそも、更年期症状と更年期障害の違いは？

更年期症状は、卵巣から出ている女性ホルモン(エストロゲン)の急激な減少により、ホルモンバランスが乱れるために起こる「ホットフラッシュ」(ほてり、のぼせ、発汗)のほか、頭痛やめまい、関節の痛み、肩こり、イライラ、気分の落ち込み、不眠などがあります。なかでも仕事や家事など日常生活に支障が出るほど重い症状を「更年期障害」といいます。



Q. 病院を受診する目安はありますか？

個人差が大きいので、明確な目安はありませんが、「症状がづらい」「日常生活に支障がある」という方は、通いやすい婦人科を受診してみてください。更年期症状だと思っていたら、バセドウ病や橋本病など甲状腺の病気が見つかることもあります。症状がよく似ているため間違われてしまうのです。自分で更年期と決めつけず、受診して検査を受けることをお勧めします。

Q. どんな治療をするの？

「エストロゲン製剤」という人工的につくったエストロゲンを含む薬を使ってホルモン補充療法を行います。「飲み薬」だけでなく、ジェル状の「塗り薬」を腕に塗ったり、「貼り薬」をお腹に貼ったり、と3種類あります。

持病などがあってホルモン補充療法ができない方には漢方薬を、うつ症状がある方には抗うつ薬を処方することもあります。



Q. ご本人や周りの人にメッセージをお願いします！

更年期の頃になると、管理職など責任のある立場についたり、子が巣立ったり親の介護が始まったりと、生活環境が大きく変化します。そこへ更年期症状が重なると、心身ともに不調をきたしやすくなります。治療で症状が緩和されればかなり生活しやすくなりますので、我慢せずに受診してみてください。また、周囲の理解も大切で、話を聞いてもらうだけで救われることがあります。

ストレスは小さいうちに対処！

「3つのR」でストレスと上手に付き合おう！

毎日が忙しいと、知らず知らずのうちにストレスは溜まっていきます。過剰なストレスは心身に不調をきたすため、早期に対処していくことが大事です。ストレス解消に効果的と言われている「3つのR」をご紹介します。

監修：

千葉大学病院
認知行動療法センター
清水 栄司 センター長

ストレス解消に効果的な「3つのR」とは？

Rest
レスト



休息、休養、睡眠

Recreation
レクリエーション



運動や旅行などの
趣味や気晴らし

Relax
リラクセス



ストレッチ、音楽などの
リラクゼーション

働く人を対象に職場のストレスをセルフチェックするツールもあります！

早期のうちにストレスに対処するためには、まず自分のストレス度合いを知る必要があります。厚生労働省は、労働者のストレスによる心身の不調から守るため、ストレスチェック制度を創設。当院でも年に1回、全職員を対象に実施しています。厚生労働省のホームページに5分でできる職場のストレスセルフチェックがありますので、ぜひお試しください。

参照：厚生労働省 働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」

01

病気などで妊娠に不安がある方へ プレコンセプションケア外来をご存じですか？

プレコンセプションケアとは、将来の妊娠のために妊娠前に健康管理を促すための取り組みのことです。当院の周産期母性科は、下記の方々を対象とする「プレコンセプションケア外来」で、経験豊富な医師と助産師がカウンセリングを行っています。

- ・ 病気治療中の方や病気を経験したことのある方
 - ・ 過去の妊娠で母児の経過が思わしくなかった方
- カウンセリングを受けられた方よりよい妊娠・出産・産後と、生まれてくる赤ちゃんの健康を目指しています。病気などで妊娠に不安がある方は、妊娠前にご相談にいらしてください。



受診には、紹介状が必要です。まずはかかりつけ医にご相談を！詳しくはホームページをご確認ください。



周産期母性科
ホームページ

婦人科・周産期母性科長
甲賀かをり 教授

03



ライトアップされた桜並木が、とても幻想的でステキでした！

日曜劇場「VIVANT」に撮影協力 外来や医学部棟前の桜並木が登場

7～9月に放送された堺雅人さんが主演のドラマ「VIVANT」(ヴィヴァン)のロケ地として撮影協力しました。外来診療棟1階のホスピタルストリートのほか、医学部前の桜並木も登場しています。

02



小山田事務部長(左端)と大塚副病院長(左から2番目)に千葉市商工会議所女性会の高梨様が直接手渡しで短冊を贈呈されました

医療従事者へ感謝をこめ 七夕飾りをご寄贈いただきました

7月5日、千葉市商工会議所女性会様より市内の小中学校や保育園、介護施設の方が医療従事者への感謝の気持ちをつづった短冊を今年もご寄贈いただきました。温かいお心遣いに心より御礼申し上げます。

05



包帯の巻き方を教える新井看護師長(中央)

現役看護師の働く姿に感動！ 看護師を目指す高校生が看護体験

7月25日、看護師を目指す県内の高校3年生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。病棟見学で、実際に看護師が働く姿を見学、その後に看護師指導の下、脈拍測定や聴診の仕方などを体験しました。

04



4,180円(税込)で「診断と治療社」より発売中です！

当院の医療スタッフらが 感染マニュアル本を出版！

感染制御部の猪狩英俊部長と千葉均看護師長を中心に作成した「病院感染予防対策パーフェクト・マニュアル」を8月4日に出版しました。実際に当院で実施している感染対策がわかりやすく解説されています。